

○本書索引心得

其一 本書に載せたる詞は頭字二字目三字目より以下すべて「いろは順」にて引くやうにせり。左の例にて其引方順序を心得べし

い り り り り り り り り り り り り
ろ い い い い い い い い い い い い
せ み さ こ や む つ よ る ど は

い り り り り り り り り り り り り
ろ い い い い い い い い い い い い
い す し き え ま う ね た を ち に

い り り り り り り り り り り り り
ろ い い い い い い い い い い い い
ひ ゆ て け の な れ わ り ほ い

い り り り り り り り り り り り り
ろ い い い い い い い い い い い い
も め あ ふ く ら そ か ぬ へ ろ

其二

同音に發音する詞は假名遣に拘はらずすべて一つに引かゝるやうに掲げたり。左の如し。

いろに
いろち
いろを
いろた
いろね
いろま
いろえ
いろき
いろし
いろす

いろほ
いろり
いろわ
いろれ
いろな
いろの
いろけ
いろて
いろゆ
いろひ

いろへ
いろぬ
いろか
いろそ
いろら
いろく
いろふ
いろあ
いろめ
いろも

いろど
いろる
いろよ
いろつ
いろむ
いろや
いろこ
いろさ
いろみ
いろせ

い
ゐ
ひ

(イと發音するものは)

「s」の處にて引くべし。

え
へ (エと發音するものは)

「え」の處にて引くべし。

を
お
ほ (オと發音するものは)

「を」の處にて引くべし。

う
ふ (ウと發音するものは)

「う」の處にて引くべし。

わ
は (ハと發音するものは)

「わ」の處にて引くべし。

あ
た
ふ (アと發音するものは)
ふ (タと發音するものは)

「あを」「たを」の處にて引くべし。

を
う
ふ (オウと發音するものは)

たたととささろそかかここわああおお

ふ	う	ふ	う	ふ	う	ふ	う	ふ	う	う	ふ	う	ふ	う
(同)	(同)	(トウと發音するもの)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)	(同)
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

「とう」の處にて引くべし。

「そう」の處にて引くべし。

「こう」の處にて引くべし。

「をう」の處にて引くべし。

や や よ よ ま ま も も は は ほ ほ な の の の

ふ	う	ふ	う	ふ	う	ふ	う	ふ	う	ふ	う
(同)	(同)	(ヨウと ものは 發音する)		(同)	(同)	(モウと ものは 發音する)		(同)	(同)	(ノウと ものは 發音する)	
上	上	上		上	上	上		上	上	上	

「よう」の處にて引くべし。

「もう」の處にて引くべし。

「ほう」の處にて引くべし。

「のう」の處にて引くべし。

ち　せ　せ　し　し　け　け　さ　さ　ら　ら　ろ　ろ　え　え
 上　　　や　　上　　　　や　　上　　　　

う　　ふ　　う　　う　　う　　ふ　　う　　う　　う　　ふ　　う　　ふ　　う　　ふ　　う
 (同) (同) (シヨウと發音するもの) (同) (同) (キョウと發音するもの) (同) (同) (ロウと發音するもの) (同) (同) (同) (同)
 上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上
 上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上　　上
 し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し
 よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ　　よ
 う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う　　う
 の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の　　の
 處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處　　處
 に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に　　に
 て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て　　て
 引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引　　引
 く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く　　く
 べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ　　べ
 し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し　　し

れ り り め み み へ ひ ひ ね ね に に て て ち
や よ や よ や よ や よ

う う う う う う う う う ふ う う う
(同) (リヨウと發音す) (同) (ミヨウと發音す) (同) (ヒヨウと發音す) (同) (ニヨウと發音す) (同) (チヨウと發音す)
(上) (上) (上) (上) (上) (上) (上) (上) (上) (上) (上) (上)

「りよう」の處にて引くべし。

「みよう」の處にて引くべし。

「ひよう」の處にて引くべし。

「によう」の處にて引くべし。

「ちよう」の處にて引くべし。

く
わ

う
(「ク」ヲ「ウ」ニ發音するものは)
「くをう」の處にて引くべし。

ゆ

い

き

し

し

ち

ち

ち

し

し

ち

ち

ち

う

ふ

う

ふ

う

う

ふ

う

う

ふ

う

う

ふ

(「ユ」ニ發音するものは)
(同)
上

(同)
(同)
上

(同)
(同)
上

(「キ」ニ發音するものは)
(同)
上

(「シ」ニ發音するものは)
(同)
上

(「チ」ニ發音するものは)
(同)
上

「ゆ」の處にて引くべし。

「き」の處にて引くべし。

「し」の處にて引くべし。

「ち」の處にて引くべし。

に	に	に	ひ	ひ	み	み	り	り	り
う	う	う	う	う	う	う	う	う	う
(ニユカミ發音す るものは)	(同)	(同)	(ヒユカミ發音す るものは)	(同)	(ミユカミ發音す るものは)	(同)	(リユカミ發音す るものは)	(同)	(同)
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
「にゆう」の處にて引くべし。	「にゆう」の處にて引くべし。	「にゆう」の處にて引くべし。	「ひゆう」の處にて引くべし。	「ひゆう」の處にて引くべし。	「みゆう」の處にて引くべし。	「みゆう」の處にて引くべし。	「りゆう」の處にて引くべし。	「りゆう」の處にて引くべし。	「りゆう」の處にて引くべし。

(注意) 以上濁音重濁音の例は並べ示されども清音と同様に心得べし。

其三 動詞は第三階活用の發音のみによりて順序を立てず。左の例の如し。

か

ふ(買)……

第三階の時はコウとも發音すれども第二階にては「かひ第五階にては「かへ」となる詞なれば「かう」の處に置かずして「かう」の處に入れたり。

い

ふ(言)……

第三階の時はユウと發音すれども第二階にては「いひ第五階にては「いへ」となる詞なれば「ゆう」の處に置かずして「いう」の處に入れたり。

其四 「ん」音は「む」の處にて引くべし。

其五 詰音は「つ」の處にて引くべし。

其六 濁音は清音の後に。重濁音は濁音の後にあり。

其七 「じ」「ぢ」「及び」「ず」「づ」の濁音は一つにせむ假名遣によりて正しく引くやうにしたり。今こゝに其頭音にある「じ」「ぢ」「ず」「づ」の差別を對照して

示さんとす。中音末音にあるものは却りて繁雜ならん事を恐れて此に掲げざるが故に索引者もし「じ」を引きて無き時は「ぢ」を搜り。「ず」を引きて無き時は「づ」を見るやうにすべし。

じ や	じ や		じ よ	じ よ		じ
く		ん	つ	く		
〔字音〕若	〔字音〕邪	盡	仍	〔字音〕辱	〔字音〕日	〔字音〕二
弱	麝	訊	尋	叙	恕	貳
惜	蛇	迅	腎	徐	汝	示
籍	闇		神	助	序	自

ぢ や		ぢ	ぢ よ	ぢ よ		ぢ
く		ん	つ	く		
〔字音〕着		〔字音〕塵	〔字音〕昵	〔字音〕濁		〔字音〕治
		陳	曜	絮		除
		陣	帙	杼		地
		沈		除		持
						痔

ぢ
き
〔字音〕直

儒

聚

恤

鵠

隼

純

• •

ちく
宇音軸
舳

この換音は正しくくゝの處にて引くやうにした。今そのかゝる

非ずして「くわ」に屬する詞を左に示す。「くわ」の事は「其二」を參着せ

く わ	く わ	く わ	く わ	く わ
う	ん	つ	い	
恍 荒	貫 還	活 月	悔 隤	火 寡
(字音)皇	(濁音)九	(字音)活	(字音)灰	(字音)化
恍	元	括	回	臥
惶	頑	刮	徊	課
廣	玩	豁	廻	顥
礦	願	滑	會	和
曠	觀	猾	槐	華
宏	歡	猾	槐	過
閔	灌		膾	卦
轟	冠		繪	禾
晃	欸		壞	瓜
	完		晦	蝸

く　　く　　〔字音〕郭　　廓　　鶴　　攫　　穫　　獲

其九　發音は片假名にて小さく書き入れて示したり。故に平假名なるは正しき假名遣。片假名なるは其讀方と知るべし。

但し右の方に示したる發音は常に用ふるもの。左の方に示したるは或場合に限りて用ふるものなるが故に左の方のは引方の順序に關係せず。

其十　拗音の母音は「ちや」「きよ」「くわ」の如く平假名にて子音の下に小さく書きたり。故に是等の詞は「ちや」「きよ」「くわ」の如く二字別々に發音するものと混すべからず。

其十一　詰音は「かっぱ」「ざっし」の如く平假名にて前音の下に小さく書きたり。故に是等の詞は「かつを」「さつま」の如き「つ」音の詞と混すべからず。

其十二　動詞形容詞は第三階の音を掲げたれば之を本とし文法に比べ

見て其他の活用を知るべし。其他の第一階第二階第四階第五階の詞を引かんとするには活用圖により之を第三階に直してすべし。

其十三 動詞より出でたる名詞にして別に異なる意味なきものは動詞に譲りて省ける事多し。是等は先づ其詞を用言第二階と見なし更に之を其第三階に直して引き見るべし。たとへば、「書き」といふ名詞を引かんとするには。之を「書く」といふ第三階の動詞に直して引き。其「書く」の處の説明に就きて「書き」の處の意味を知るの類なり。

其十四 本書にて古言と稱ふるは奈良の朝以前の言語を指し。雅言と稱ふるは山城遷都以後の詞にして特に中古體の文章および和歌に用ひらるゝ言語を指し。俗語と稱ふるは文章に用ひず唯談話にのみ用ふる言語を指す。

其十五 本書に用ひたる略字は左の如し。(書名の略字は別に引用書目の處に示す。

句切。

俗	雅	古	枕	感	接	後	發	數
俗	雅	古	枕	感	接	後	發	數
語	言	言	詞	詞	續	詞	語	詞

詞

○ 例の前の隔て。
 ㄣ 引用のしるし。
 一、詞の種類。
 二、引用書名。
 三、説明中の挿註。
 其詞専用の時代。
 又は社會。

〔

説明の番號。

一、説明中の説明の
しるし。

二、前文と後文との
直に相接せざる處
のしるし。

三、番號の多くある
時、いづれの番號に
も關するしるし。

||

一、右傍なるは主眼
の文字を見出し易
からしめんための
しるし。

二、字の上にあるは
同じ意味の文字を
示すしるし。

活用語尾を示す
しるし。

